

はじめに

本調査は、当金庫のお取引先のご協力により昭和50年7月から実施しているものです。四半期ごとに調査を行い、D.I.を中心として分析を行っています。

なお、当金庫では6種類の一般業種のほか、地域金融機関として地場産業に重点を置いた調査を行い、次の8業種を選定しております。

- ① 縫製業
- ② 電子部品・半導体製造業
- ③ 漆器業
- ④ 木材業
- ⑤ 建具業
- ⑥ 織布業
- ⑦ 繊維・雑品業
- ⑧ 観光業

今回の調査は、令和4年10月～12月期の業況実績と、令和5年1月～3月期の見通しについて、管内519先の事業所を対象に実施いたしました。

些かなりとも経営のお役に立てていただければ幸いです。

※D.I. (Diffusion Index) 拡張指数

不変部分を除いて増加（上昇）したとする企業と、減少（下降）したとする企業の全体に占める構成比のどちらの力が強いかを比べて、時系列的に景気のベクトルの傾向を見る方法です。

**** 目次 ****

1. 概況	1
2. 地区内の業況D.I.推移	2
3. 一般業種の業況	
(1) 製造業	3
(2) 卸売業	4
(3) 小売業	5
(4) サービス業	6
(5) 建設業	7
(6) 不動産業	8
4. 地場産業の業況	
(1) 能登地区の縫製業	9
(2) 能登地区の電子部品 ・半導体製造業	10
(3) 能登地区の漆器業	11
(4) 能登地区の木材業	12
(5) 能登地区の建具業	13
(6) 能登地区の織布業	14
(7) 能登地区の繊維・雑品業	15
(8) 能登地区の観光業	16
5. 経済指標	17～18
6. 特別調査	
2023年（令和5年）の経営見通し	19

（注）令和4年10月～12月を今期、令和4年7月～9月を前期、令和5年1月～3月を来期という、以下同じ。

調査対象企業の業種別先数および有効回答数

	依頼先	有効回答数	回答率 (%)	構成比 (%)
製 造 業	150	135	90.0	28.0
卸 売 業	24	22	91.7	4.6
小 売 業	149	136	91.3	28.2
サービス業	89	85	95.5	17.6
建 設 業	85	83	97.6	17.2
不 動 産 業	22	21	95.5	4.4
合 計	519	482	92.9	100.0

◆◆◆ 概 況 ◆◆◆

《 2022 年 10 月～12 月》

今年はコロナウイルスの蔓延やロシアのウクライナ侵攻が起こり、また日銀が大規模な金融緩和を行っている一方、FRB（米連邦準備理事会）は利上げを続けており、10 月には 1998 年以来の水準となる 1 ドル 146 円に達して急激な円安になり、現在も円安の状況が続いている。これらが影響し、多様な種類・品目で物価の上昇が続き、その動きは現在も歯止めがかかっていない。

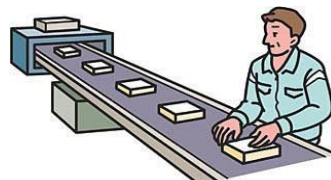
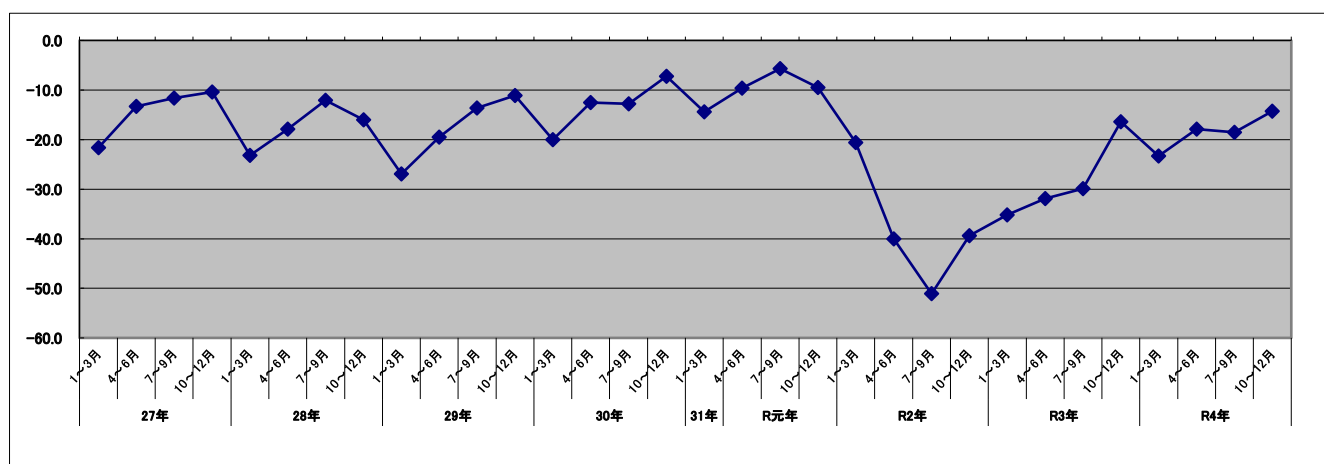
こうした中で、当金庫営業地区の今期業況 D.I. は、△14.3（前期△18.5）とやや改善した。地区内全般では製造、卸売業、小売業は改善し、サービス業は横這いで、建設業、不動産業は悪化した。製造業、小売業、サービス業は予想よりも改善し、卸売業は悪化の予想であったが改善、建設業、不動産業は予想よりも悪化した。地場産業では全ての業種が横這いか改善を示し、半導体業、繊維・雑品業が横這いで、観光業がやや改善し、それ以外の業種においては 10 ポイント以上の改善を示した。今期は、概ね予想よりもよい業況であったといえる。しかし依然として半導体の供給は遅れており、木材価格の高騰は沈静化していないなど、楽観はできない。企業側としても原材料の値上がりなどの状況に対して慎重な対応が必要になってくる。中でも価格の上昇については、電気料金、ガソリン、日用品、食料品、火災保険や地震保険など、様々な品目が全体的に値上がりしており、来期以降も段階的な値上がりが予想されている。こういった状況がどのくらい続くのかは見通しが立っておらず、不安な状態が続く。

事業主の懸念材料には、ゼロゼロ融資の返済もある。コロナ対策の一つで、実質無利子（利子ゼロ）・無担保（担保ゼロ）であることからゼロゼロ融資と呼ばれた支援策のことである。早い時期に借り入れていれば、返済がすでに始まっているところもある。据え置き期間を 3 年に設定し、金融機関に返済する利子を公的機関が負担する 3 年が過ぎると、返済が本格化し、一層厳しい状況になる。経費の削減や役員報酬の減額などの身を切る対策をとってなお返済の目処が立たない場合は、経済産業省の設ける「新型コロナウイルスに関する経営相談窓口」に資金繰りの相談をすることや補助金や助成金の申請を行うこと、また中小企業庁が運用するセーフティネット保証制度を利用し、補償限度額の別枠化で資金調達が可能になる制度の利用や「コロナ借り換え保証制度」を利用することなどが必要になってくるだろう。

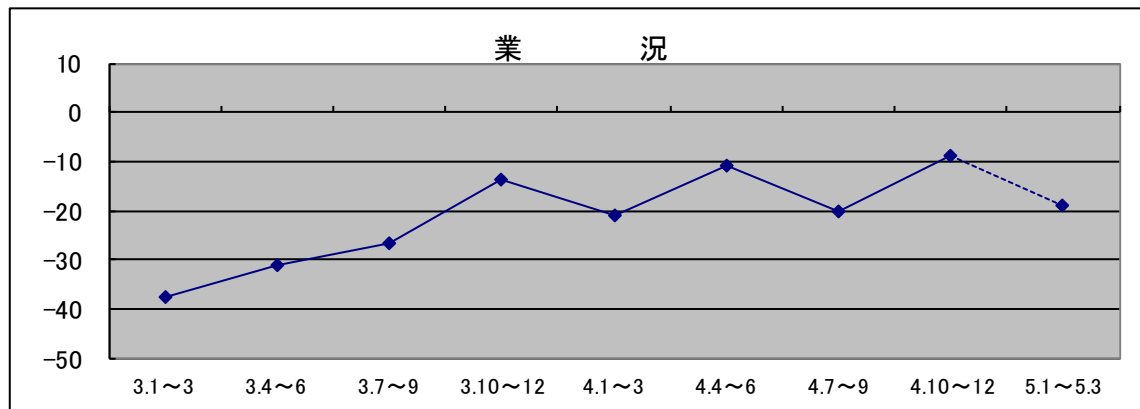
しかし、それも延命措置である事には変わりはなく、企業の体質そのものを営業利益が出るものに変えなければならない。返済に向けた早めの資金繰り、金融機関や専門家への相談、公的な補助制度の活用なども同時に行っていくことが肝要である。

地区内の業況D. I. 推移

年	期間	業況D. I.	年	期間	業況D. I.
H27年	1～3月	△ 21.6	H31年	1～3月	△ 14.4
	4～6月	△ 13.3	R元年	4～6月	△ 9.6
	7～9月	△ 11.6		7～9月	△ 5.7
	10～12月	△ 10.4		10～12月	△ 9.5
H28年	1～3月	△ 23.2	R2年	1～3月	△ 20.6
	4～6月	△ 17.9		4～6月	△ 40.0
	7～9月	△ 12.1		7～9月	△ 51.1
	10～12月	△ 16.0		10～12月	△ 39.4
H29年	1～3月	△ 26.9	R3年	1～3月	△ 35.2
	4～6月	△ 19.5		4～6月	△ 31.9
	7～9月	△ 13.6		7～9月	△ 29.9
	10～12月	△ 11.1		10～12月	△ 16.4
H30年	1～3月	△ 20.0	R4年	1～3月	△ 23.3
	4～6月	△ 12.5		4～6月	△ 17.9
	7～9月	△ 12.8		7～9月	△ 18.5
	10～12月	△ 7.2		10～12月	△ 14.3



製造業



【概 況】

今期（R 4.1 0月～1 2月）の業況D.I.は△8. 8と、前期（△2 0. 3）からやや改善した。それに伴い、売上・収益は改善したが、人手はやや悪化、資金繰りと設備はほぼ横這いであった。ロシアのウクライナ侵攻と円安の影響は出ているが、今期は全体を通してやや改善傾向であった。

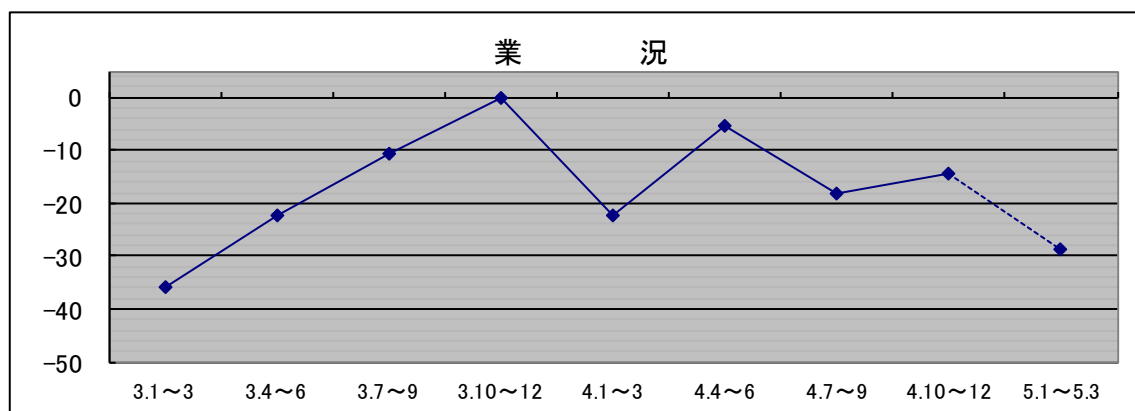
来期（R 5.1 月～3 月）の業況D.I.は△1 9. 1と再び悪化の見通しとしており、他の項目についても横這いか悪化を予想。このまま改善傾向が続くと見てはならず、景気が好転する時期が分からない状態であり、動向には注視が必要である。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年				令和4年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	△37.7	△31.0	△26.8	△13.9	△20.9	△10.8	△20.3	△8.8	△19.1
売 上	△38.2	△29.4	△19.5	△3.1	△15.0	△2.2	△15.2	2.2	△13.2
収 益	△38.7	△28.9	△13.7	△10.8	△17.6	△10.8	△21.7	△5.1	△15.4
資金繰り	△13.6	△15.5	△7.9	△10.3	△8.0	△7.2	△11.6	△9.6	△10.3
人 手	△3.7	△3.2	△3.2	△2.6	△3.2	△3.6	△5.1	△8.8	△8.1
設 備	△2.6	1.1	△2.6	△3.1	△2.1	△2.2	△3.6	△3.7	△3.7

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
原材料高	20.5%	提携先を見つける	28.9%
売上の停滞・減少	15.6%	販路を広げる	19.0%
輸入製品との競争の激化	13.2%	経費を節減する	15.7%

卸売業



【概 況】

今期（R 4.1 0月～1 2月）業況D.I.は、△14.3（前期△18.2）とやや持ち直した。物価の高騰が続いているが、年末の需要があったためと思われる。

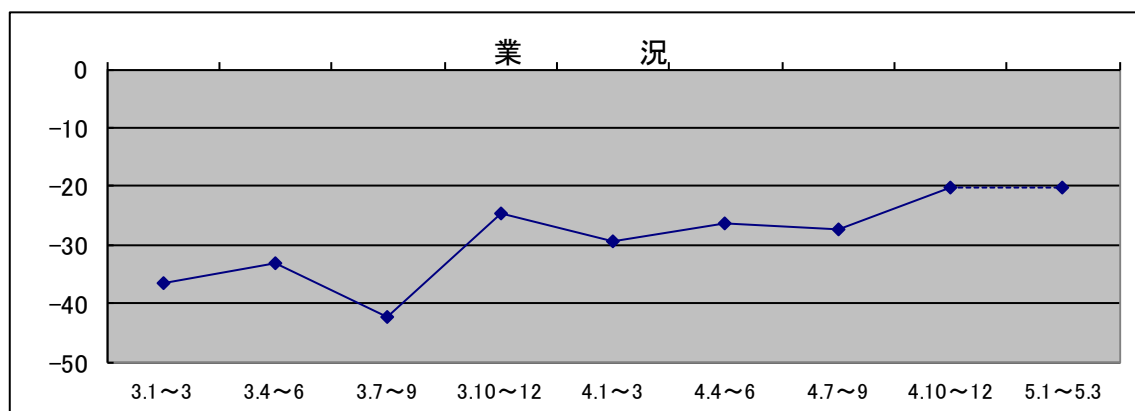
来期（R 5.1月～3月）の卸売業全体の見通しは、更なる物価の値上がりにより消費が抑えられるのではないかとこの予想から、△28.6と悪化の見込み。仕入価格以外の全ての項目で悪化を予想しており、厳しい状況が続くと見ている。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年				令和4年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	△35.7	△22.2	△10.7	0.0	△22.2	△5.3	△18.2	△14.3	△28.6
売 上	△53.6	△25.9	△21.4	△3.6	△14.8	15.8	9.1	4.8	0.0
収 益	△50.0	△18.5	△25.0	△7.1	△18.5	5.3	△22.7	△14.3	△19.0
仕入価格	△14.3	11.1	21.4	25.0	51.9	47.4	45.5	57.1	38.1
在 庫	△3.6	△3.7	△14.3	△7.1	△3.7	0.0	△4.5	△9.5	△19.0
資金繰り	△21.4	△22.2	△14.3	△3.6	3.7	△26.3	△18.2	△23.8	△33.3

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
地価の高騰	17.6%	提携先を見つける	29.0%
売上の停滞・減少	16.9%	販路を広げる	18.8%
商圈人口の減少	14.5%	経費を節減する	15.9%

小売業



【概 況】

今期（R 4.1 0月～1 2月）の業況D.I.は△20.4（前期△27.5）とやや改善を示した。販売価格は上昇し収益もやや改善したが、円安等による物価高が続いており、一概に良い状態であるとは言えない。

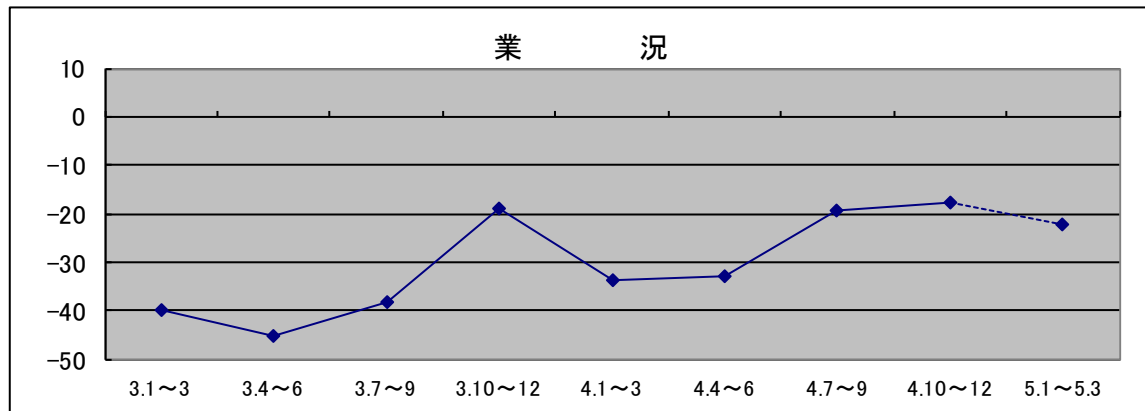
来期（R 5.1 月～3 月）業況D.I.については△20.4と横這いを予想。他の項目では収益・販売価格の悪化以外は、ほぼ横這いを予想。ロシアのウクライナ侵攻による物価高や円安等が悪影響を及ぼすことが考えられ、状況の注視が必要である。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年				令和4年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	△36.7	△33.1	△42.2	△24.5	△29.4	△26.3	△27.5	△20.4	△20.4
売 上	△36.2	△30.9	△34.4	△14.7	△22.6	△19.7	△13.8	△7.3	△8.0
収 益	△34.0	△29.8	△34.4	△14.7	△26.0	△27.0	△22.5	△12.4	△16.1
販売価格	△2.1	△2.2	△2.8	7.6	11.9	17.5	28.3	34.3	26.3
在 庫	0.5	0.0	△0.6	1.6	1.1	△7.3	0.7	0.7	1.5
資金繰り	△11.2	△12.9	△12.8	△13.0	△11.9	△12.4	△8.7	△11.7	△10.2

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
地価の高騰	17.8%	仕入先を開拓・選別する	30.1%
売上の停滞・減少	16.9%	経費を節減する	23.3%
商圈人口の減少	14.5%	宣伝・広告を強化する	12.1%

サービス業



【概 況】

今期（R 4.1 0～1 2月）業況D.I.は△17.6（前期△19.3）とほぼ横這いであるが、改善傾向である。

開催するイベントも昨年に比べて増加してきており、それに伴い県内外からの観光客も増加している。その中で売り上げ・収益・資金繰りは改善し、料金価格も引き続き上昇しているが、コロナの第八波の感染者数も増加してきており、業況悪化に繋がる不安要素は残る。

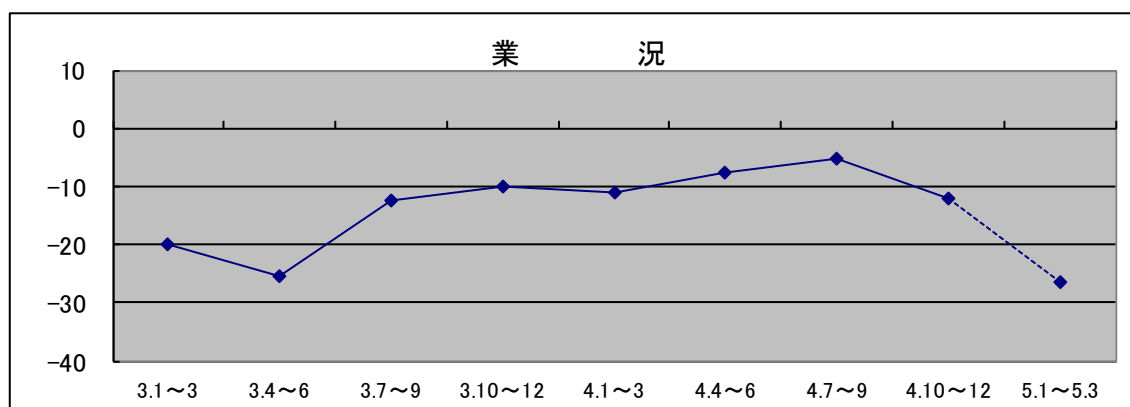
来期（R 5.1月～3月）業況D.I.は△22.4とやや悪化を予想している。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年				令和4年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	△39.8	△45.1	△38.1	△19.1	△33.9	△32.9	△19.3	△17.6	△22.4
売 上	△31.9	△46.0	△32.7	△1.7	△26.8	△25.9	△14.5	△5.9	1.2
収 益	△31.0	△41.6	△31.0	△2.6	△26.8	△25.9	△9.6	△5.9	2.4
料金価格	△3.5	△3.5	△8.8	0.9	10.7	△4.7	10.8	15.3	11.8
資金繰り	△17.7	△14.2	△21.2	△10.4	△16.1	△21.2	△7.2	△5.9	△7.1
設 備	△5.3	△1.8	△3.5	△5.2	△8.9	△5.9	△6.0	△3.5	△3.5

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
利幅の縮小	15.9%	提携先を見つける	24.8%
売上の停滞・減少	13.2%	経費を節減する	18.8%
材料価格の上昇	10.9%	宣伝・広告を強化する	13.3%

建設業



【概 況】

今期（R 4.1 0 月～1 2 月）の業況D.I.は横這いと予想であったが、△12.0と悪化した。請負価格は上昇したが、他全ての項目で悪化。木材価格は高止まりしており、民間工事や一般住宅の建設が減少したことで、売上悪化に繋がった。

経営上の問題点には前期同様『材料価格の上昇』が高ポイントになっており、それが請負価格の上昇につながり、他の項目にも悪影響を及ぼしている。

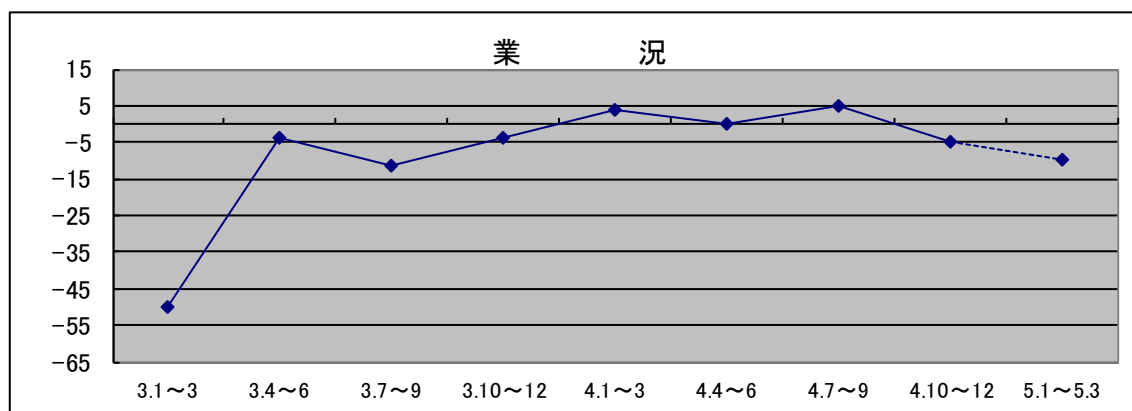
来期（R 5.1 月～3 月）の業況D.I.は△26.5と更なる悪化を予想。請負価格はやや下がり、資金繰り・人手は若干の改善を予想しているが、売上・収益については悪化を予想し、全体的に悪化の傾向にあると予想している。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年				令和4年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	△19.8	△25.3	△12.5	△10.2	△11.2	△7.5	△5.1	△12.0	△26.5
売 上	△22.1	△19.5	△6.8	△12.5	△9.0	△1.2	△5.1	△10.8	△14.5
収 益	△12.8	△13.8	△6.8	△12.5	△11.2	△16.2	△10.3	△16.9	△20.5
請負価格	△7.0	△12.6	△5.7	△2.3	△5.6	11.2	14.1	26.5	24.1
資金繰り	△15.1	△10.3	△9.1	△8.0	△7.9	△6.2	△7.7	△18.1	△16.9
人 手	△14.0	△6.9	△8.0	△8.0	△12.4	△7.5	△7.7	△14.5	△12.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
人件費以外の経費の増加	17.1%	技術力を高める	30.3%
材料価格の上昇	13.9%	経費を節減する	19.9%
合理化の不足	12.7%	販路を広げる	12.6%

不動産業



【概 況】

今期（R 4.1 0月～1 2月）の業況D.I.は△4.8（前期4.8）と悪化を示した。売上・在庫・資金繰りが改善し、販売価格は上昇、収益が横這いであった。新築物件などに関しては、価格高騰の中で売れ行きは不調である。

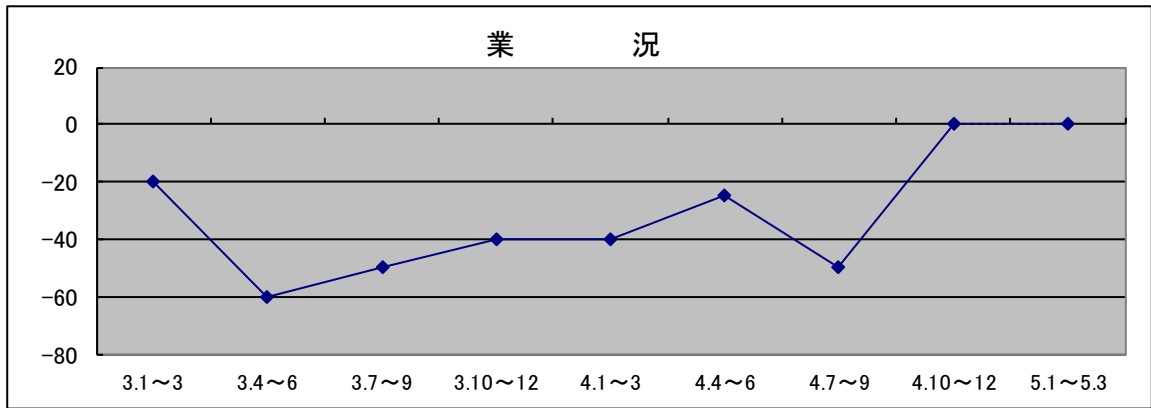
来期（R 5.1 月～3 月）の業況D.I.は△9.5と悪化の予想となっており、他の項目では販売価格以外の全てにおいて悪化の予想となっている。昨年同時期に比べて在庫・資金繰りが悪化しており、厳しい状況が続く。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年				令和4年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	△36.0	△4.0	△11.5	△3.8	3.7	0.0	4.8	△4.8	△9.5
売 上	△36.0	△4.0	△19.2	△11.5	△7.4	△10.0	4.8	9.5	0.0
収 益	△36.0	△8.0	△7.7	△7.7	0.0	10.0	9.5	9.5	0.0
販売価格	△16.0	△8.0	△3.8	0.0	7.4	15.0	19.0	23.8	23.8
在 庫	△4.0	△16.0	△7.7	0.0	0.0	△15.0	△19.0	△9.5	△14.3
資金繰り	△16.0	△12.0	△7.7	△3.8	3.7	△5.0	△19.0	△9.5	△14.3

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	21.4%	提携先を見つける	22.2%
同業者間の競争の激化	21.4%	宣伝・広告を強化する	18.5%
人手不足	14.3%	販路を広げる	14.8%

能登地区の縫製業



【概 況】

今期（R 4.1 0月～1 2月）の業況D.I.は0. 0と前期（R 4.7月～9月）の△5 0. 0より改善、前回の見通し以上に改善した結果となったが、売上・収益・人手については見通しよりも悪い結果であった。

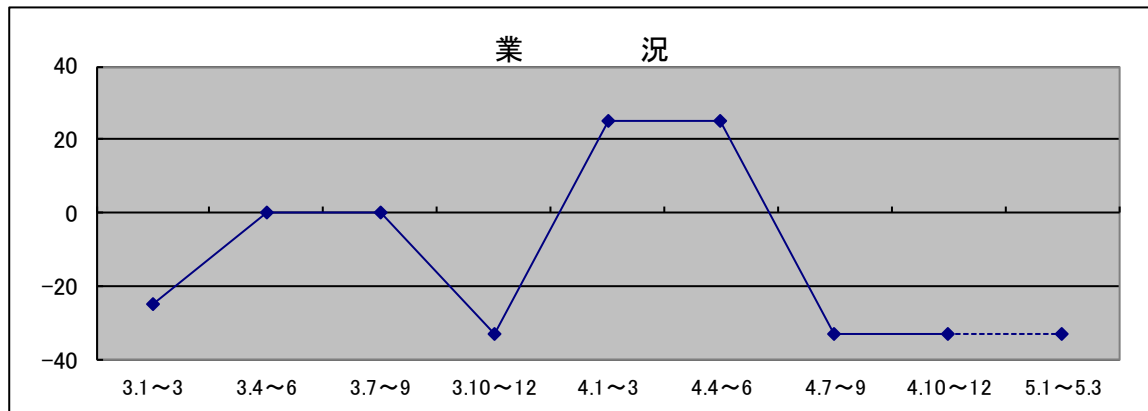
R 3年4月～6月からR 4年4～6月期まで業況は回復基調を保ち、前期は一旦悪化したが、今期（R 4.1 0月～1 2月）、来期（R 5.1月～3月）は繁忙期で現状維持の見通し。来期（R 5.1月～3月）は業況を含めほとんどの項目で横這いを予想しており、売上のみが悪化の予想となっている。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年				令和4年				見通し
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
業 況	△20.0	△60.0	△50.0	△40.0	△40.0	△25.0	△50.0	0.0	0.0
売 上	0.0	△60.0	0.0	△20.0	20.0	25.0	0.0	0.0	△25.0
収 益	△20.0	△60.0	0.0	△20.0	0.0	25.0	△25.0	0.0	0.0
資金繰り	0.0	△20.0	0.0	△20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
人 手	△40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	△25.0	△25.0	△75.0	△75.0
設 備	△20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
輸入製品との競争の激化	26.7%	人材を確保する	37.5%
人手不足	20.0%	工場・機械を増設・移転する	25.0%
原材料高	13.3%	情報力を強化する	12.5%

能登地区の電子部品・半導体製造業



【概 況】

今期（R 4.1 0 月～1 2 月）業況D.I.は△33.3で横這いであった。

業況・人手以外全ての項目で悪化しており、厳しい状況は続いている。

半導体需要の高まりに対して、半導体業界全体の供給は改善してきているも、自動車業界においては未だに供給が改善していない。それにより自動車生産台数も改善しておらず、ある自動車メーカー社長は、今年一杯半導体不足を解消するのは厳しいのではないかとの見解を示している。

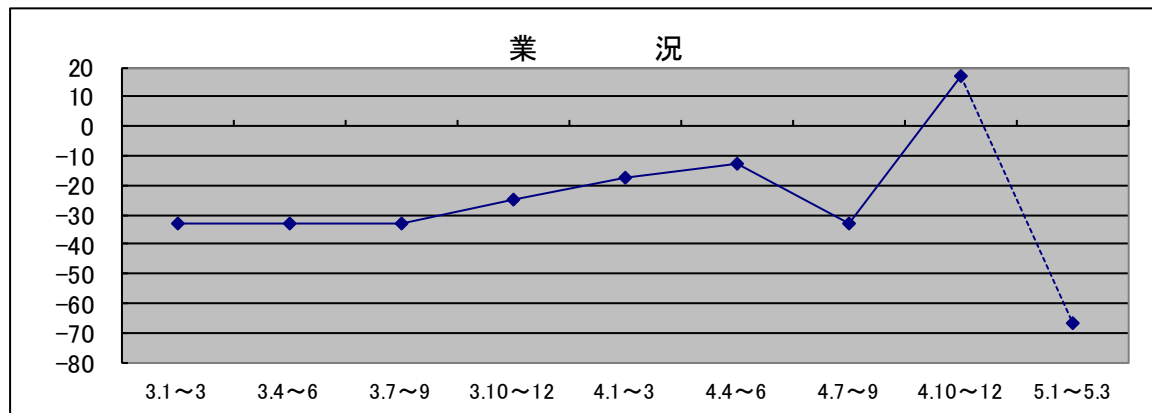
来期（R 5.1 月～3 月）は、業況D.I.は横這い、収益については悪化、売上については改善を予想、他の項目は横這いと、改善の時期が見えず、今後の動向について引き続き注視が必要である。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年				令和4年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	△25.0	0.0	0.0	△33.3	0.0	25.0	△33.3	△33.3	△33.3
売 上	△25.0	△50.0	0.0	0.0	40.0	△50.0	△33.3	△66.7	△33.3
収 益	△25.0	50.0	0.0	△66.7	40.0	△50.0	0.0	△33.3	△66.7
資金繰り	0.0	0.0	0.0	△33.3	0.0	△50.0	0.0	△33.3	△33.3
人 手	0.0	0.0	0.0	0.0	△20.0	△25.0	0.0	0.0	0.0
設 備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	△33.3	△33.3

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	25.0%	提携先を見つける	22.2%
輸入製品との競争の激化	25.0%	機械化を推進する	22.2%
原材料高	25.0%	販路を広げる	11.1%

能登地区の漆器業



【概 況】

今期（R 4.1 0 月～1 2 月）業況D.I.は1 6. 7（前期△3 3. 3）と改善した。行動制限が緩和され、観光客の移動などにより改善し、人手は横這い、設備は悪化したが、それ以外の全項目について改善を示した。

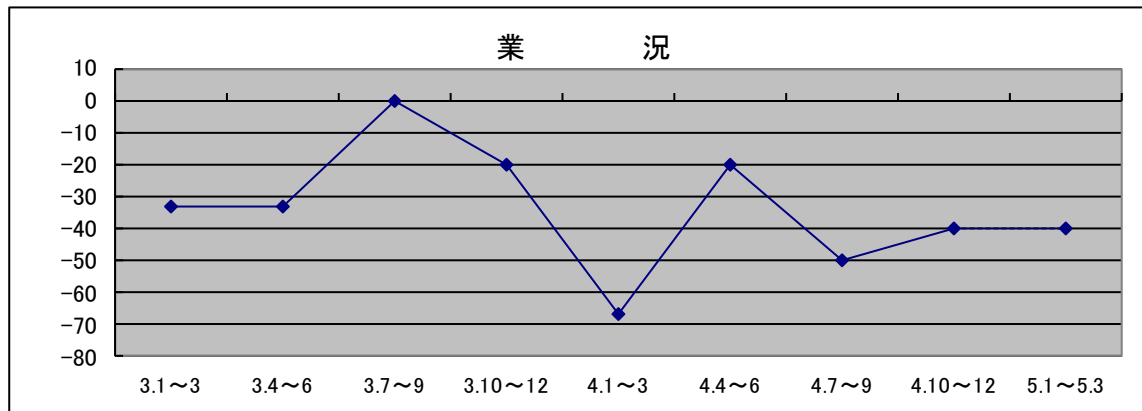
来期（R 5.1 月～3 月）は、例年季節的に悪化する時期であることと、先行きの不透明感からか、資金繰りと人手、設備については横這い、それ以外の項目では大幅な悪化を予想している。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年				令和4年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	△33.3	△33.3	△33.3	△25.0	△17.6	△12.5	△33.3	16.7	△66.7
売 上	△33.3	△44.4	△33.3	△6.2	△17.6	△12.5	△16.7	16.7	△66.7
収 益	△33.3	△38.9	△27.8	△12.5	△17.6	△12.5	△33.3	16.7	△50.0
資金繰り	△22.2	△16.7	△27.8	△25.0	△5.9	△12.5	△50.0	△33.3	△33.3
人 手	0.0	5.6	5.6	6.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
設 備	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	△16.7	△16.7

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	28.6%	提携先を見つける	27.8%
輸入製品との競争の激化	21.4%	販路を広げる	22.2%
大手企業との競争の激化	7.1%	経費を節減する	16.7%

能登地区の木材業



【概 況】

今期（R 4.1 0月～1 2月）業況D.I.は△40.0と前回の△50.0に比べ改善し、売上・収益はほぼ横這い、資金繰りはやや改善、人手・設備については改善した。木材価格は未だに高止まりの状況が続いており、動向には注意が必要である。

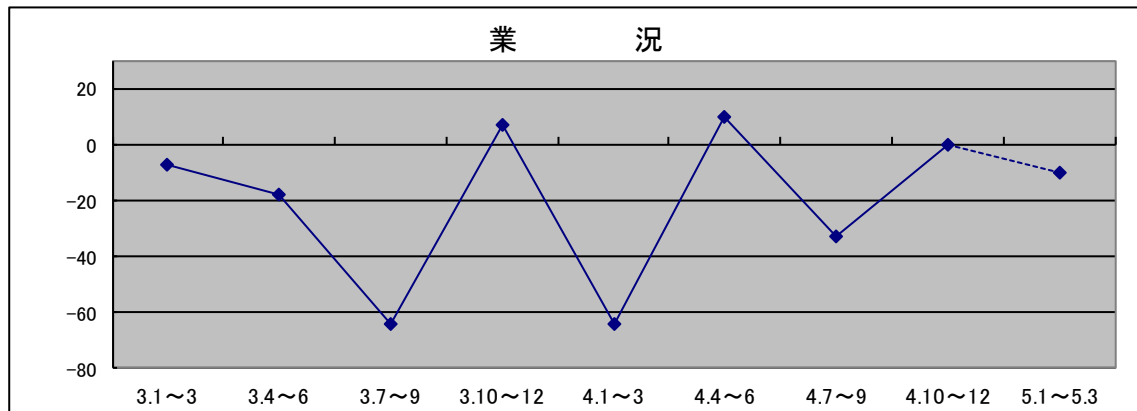
経営上の問題点は「取扱商品の陳腐化」、「売上の停滞・減少」は変わらず、「合理化の不足」に代わり、「同業者間の競争の激化」が挙げた。来期は売上・収益が改善、その他の項目については横這いと予想している。木材価格の高騰が落ち着きを取り戻すのは、まだ先になりそうである。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年				令和4年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	△33.3	△33.3	0.0	△20.0	△66.7	△20.0	△50.0	△40.0	△40.0
売 上	△50.0	△50.0	△40.0	△60.0	△66.7	△20.0	△37.5	△40.0	△20.0
収 益	△50.0	△50.0	△20.0	△60.0	△50.0	0.0	△37.5	△40.0	△20.0
資金繰り	△33.3	△16.7	△20.0	△20.0	△33.3	△20.0	△25.0	△20.0	△20.0
人 手	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	△12.5	0.0	0.0
設 備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	△12.5	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
取扱商品の陳腐化	25.0%	提携先を見つける	22.2%
売上の停滞・減少	12.5%	販路を広げる	11.1%
同業者間の競争の激化	12.5%	経費を節減する	11.1%

能登地区の建具業



【概 況】

前期（R 4.7月～9月）業況D.I.は悪化したが、今期（R 4.10月～12月）D.I.は0.0と大幅に改善、一昨年の第二四半期以降、一期ごとに浮き沈みを繰り返す状態が続いている。今期は設備の横這いを除き、全ての項目で数値は改善した。来期（R 5.1月～3月）の予測数値は、業況・売上・収益がやや悪化すると予想しているが、激しい乱高下は一服すると見ている。

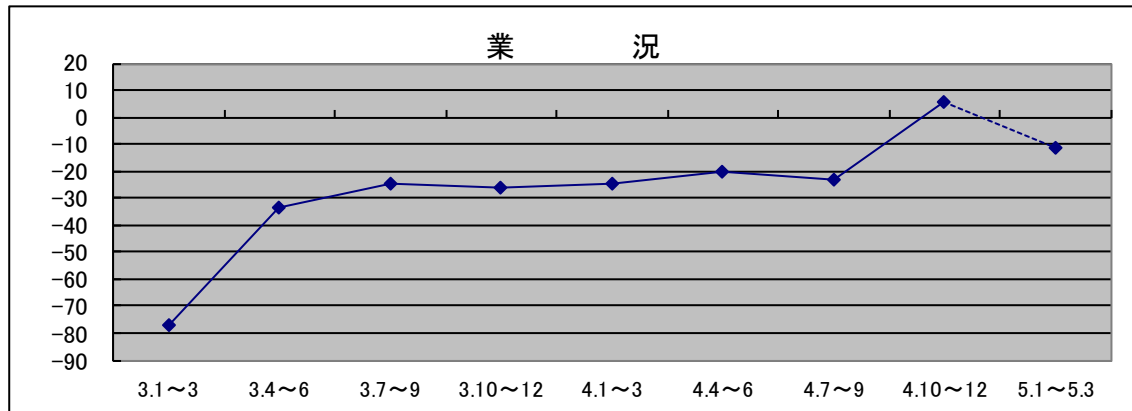
経営上の問題点として「売上の停滞・減少」と「人手不足」、「同業者間の競争の激化」の各10.0%が同率で並び、比較的低い数値であることから、各企業で抱えている問題にばらつきがあると思われる。重点施策については、「工場・機械を増設・移転する」が一番多く、機械や設備の入れ換えを検討している企業が少なからずあると思われる。次いで「販路を広げる」、「情報力を強化する」回答が同率で並んでいる。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年				令和4年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	△7.7	△18.2	△64.3	7.1	△64.3	10.0	△33.3	0.0	△10.0
売 上	0.0	△9.1	△50.0	7.1	△57.1	10.0	△33.3	0.0	△10.0
収 益	0.0	△27.3	△42.9	7.1	△64.3	10.0	△33.3	0.0	△10.0
資金繰り	0.0	0.0	0.0	△7.1	0.0	0.0	△22.2	0.0	0.0
人 手	0.0	0.0	0.0	△14.3	0.0	0.0	△11.1	0.0	0.0
設 備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	10.0%	工場・機械を増設・移転する	17.6%
人手不足	10.0%	販路を広げる	11.8%
同業者間の競争の激化	10.0%	情報力を強化する	11.8%

能登地区の織布業



【概 況】

今期（R 4.1 0月～1 2月）業況D.I.は5. 6（前期△2 3. 5）と改善を示し、今期は人手・設備が悪化、それ以外の項目が改善した。

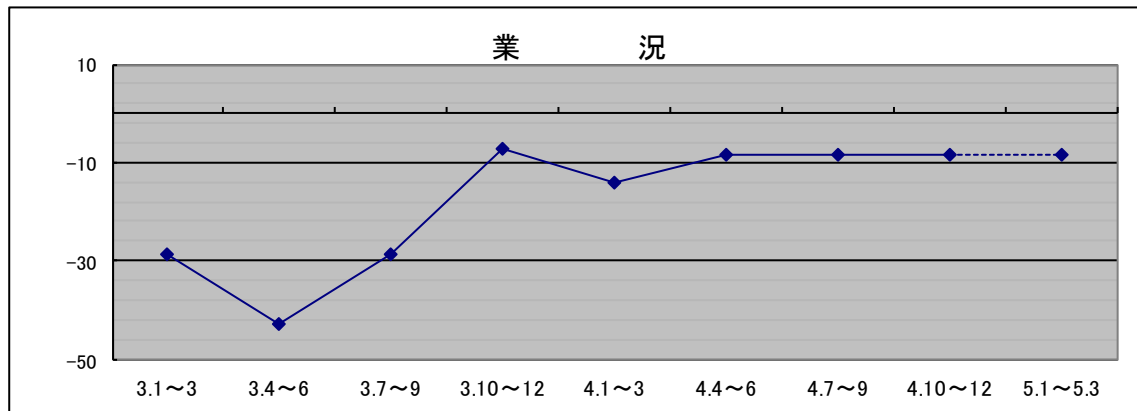
来期（R 5.1 月～3 月）は業況については悪化を予想しており、資金繰りがやや改善、売上・収益は悪化、人手・設備については横這いを予想している。今後、円安やロシアのウクライナ侵攻による物価高の影響が考えられ、楽観できない状況である。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年				令和4年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	△76.9	△33.3	△25.0	△25.9	△25.0	△20.0	△23.5	5.6	△11.1
売 上	△65.1	△29.6	△10.7	△29.6	△20.8	0.0	△17.6	22.2	△5.6
収 益	△69.2	△25.9	△3.6	△29.6	△8.3	△5.0	△17.6	22.2	△5.6
資金繰り	△11.5	△14.8	0.0	△14.8	△8.3	△5.0	△17.6	△11.1	△5.6
人 手	7.7	△3.7	0.0	△3.7	△4.2	△10.0	△5.9	△11.1	△11.1
設 備	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0	△5.0	0.0	△5.6	△5.6

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
原材料高	23.1%	提携先を見つける	31.0%
輸入製品との競争の激化	17.3%	販路を広げる	21.4%
売上の停滞・減少	13.5%	経費を削減する	16.7%

能登地区の繊維・雑品業



【概 況】

今期（R 4.1 0月～1 2月）業況D.I.は△8. 3と横這いであり、他全ての項目においても横這いの結果となり、直近三期連続で数値が全く一緒の横這いとなった。例年通りならば季節需要があるため改善する時期であるが、ウクライナ侵攻等の影響により、人手以外は全ての数値で見込み通りの横這いの結果になった。

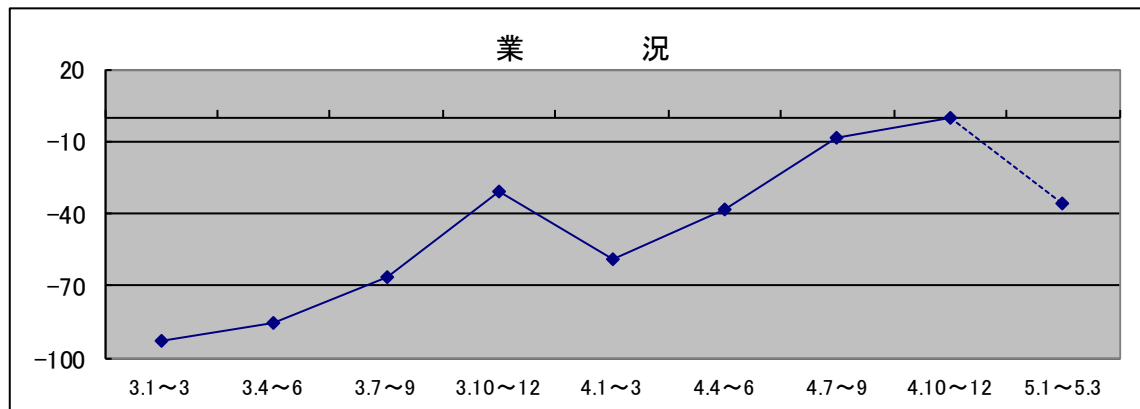
来期（R 5.1 月～3 月）、業況D.I.は△8. 3と横這いを予想。他の項目については人手のみ悪化を予想し、それ以外全ての項目で横這いを予想している。

	令和3年				令和4年				見通し
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
業 況	△28.6	△42.9	△28.6	△7.1	△14.3	△8.3	△8.3	△8.3	△8.3
売 上	△21.4	△42.9	△28.6	14.3	△14.3	△8.3	△8.3	△8.3	△8.3
収 益	△21.4	△42.9	△28.6	14.3	△14.3	△8.3	△8.3	△8.3	△8.3
資金繰り	△14.3	0.0	0.0	△7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
人 手	△21.4	0.0	0.0	0.0	7.1	8.3	8.3	8.3	0.0
設 備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

《業績判断D.I.の推移》

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
同業者間の競争の激化	70.0%	販路を広げる	36.4%
売上の停滞・減少	50.0%	新製品を開発する	36.4%
輸入製品との競争の激化	20.0%	経費を節減する	18.2%

能登地区の観光業



【概 況】

今期（R 4.10月～12月）業況D.I.は、前期（R 4.7月～9月）の△8.3から0.0と引き続き改善した。コロナウイルス第八波による感染者は、徐々に増加している。行動制限等が無いことで人流は増え、それにより売上は改善したが、円安等の影響で収益・人手は悪化し、資金繰り・設備はほぼ横ばいになった。

来期（R 5.1月～3月）業況D.I.は△35.7と大幅な悪化を予想。冬の旅行シーズンの反動で悪化を見込んでいる様子。設備は横這いであるが、他の項目については全て悪化するとの見通し。

《業績判断D.I.の推移》

	令和3年				令和4年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	△92.9	△85.7	△66.7	△31.2	△58.8	△38.5	△8.3	0.0	△35.7
売 上	△92.9	△78.6	△40.0	0.0	△41.2	△15.4	25.0	28.6	△7.1
収 益	△92.9	△78.6	△40.0	△12.5	△47.1	△15.4	25.0	7.1	△7.1
資金繰り	△14.3	0.0	6.7	0.0	11.8	15.4	16.7	14.3	0.0
人 手	△50.0	△42.9	△33.3	△18.8	△17.6	0.0	8.3	0.0	△14.3
設 備	13.3	△7.1	△6.7	△12.5	△29.4	△15.4	△8.3	△7.1	△7.1

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
材料価格の上昇	18.2%	提携先を見つける	25.6%
技術力の不足	15.9%	宣伝・広告を強化する	17.9%
人手不足	9.1%	経費を節減する	15.4%

主要経済指標

◆ 労働

(時間)

	有効求人倍率 (季節調整値)	実質労働時間	
			うち所定外
3年 1月	1.22	127.9	7.4
3年 2月	1.26	132.8	8.1
3年 3月	1.27	138.8	8.6
3年 4月	1.35	143.7	8.3
3年 5月	1.36	129.2	7.5
3年 6月	1.38	141.4	8.0
3年 7月	1.35	141.5	8.5
3年 8月	1.36	131.7	7.9
3年 9月	1.40	137.0	8.4
3年 10月	1.40	141.3	8.7
3年 11月	1.38	142.5	8.9
3年 12月	1.38	142.2	9.2
4年 1月	1.46	132.1	8.3
4年 2月	1.51	133.5	8.7
4年 3月	1.47	137.3	8.8
4年 4月	1.52	145.5	9.6
4年 5月	1.63	135.9	7.4
4年 6月	1.64	143.7	8.6
4年 7月	1.67	142.6	9.5
4年 8月	1.67	136.1	9.2
4年 9月	1.69	138.4	9.8
4年 10月	1.66	140.7	10.5

資料: 石川県企画開発部統計課

◆ 消費者物価指数

※平成28年より2015年(平成27年)を100としています。

	総合	前年同月比
3年 1月	102.6	-0.4
3年 2月	102.5	-0.1
3年 3月	102.8	0.1
3年 4月	102.4	-0.1
3年 5月	102.7	0.0
3年 6月	102.8	0.1
3年 7月	99.8	-0.2
3年 8月	99.9	0.1
3年 9月	100.2	0.7
3年 10月	100.2	0.3
3年 11月	100.1	0.6
3年 12月	100.1	0.6
4年 1月	100.2	0.1
4年 2月	100.8	0.9
4年 3月	101.0	0.8
4年 4月	101.3	2.0
4年 5月	101.6	1.8
4年 6月	101.3	1.6
4年 7月	102.0	2.2
4年 8月	102.5	2.6
4年 9月	102.9	2.7
4年 10月	103.2	3.0
4年 11月	103.4	3.3

資料: 石川県企画開発部統計課

◆ 信用保証

(百万円)

	保証承諾		保証債務	
	件数	金額	件数	金額
3年 4月	820	15,623	23,341	313,128
3年 5月	245	2,328	23,410	314,911
3年 6月	270	1,983	23,401	314,354
3年 7月	246	1,910	23,385	313,433
3年 8月	264	2,077	23,386	312,444
3年 9月	294	2,281	23,390	312,173
3年 10月	271	2,637	23,423	312,011
3年 11月	257	1,849	23,441	311,752
3年 12月	259	2,395	23,443	311,106
4年 1月	187	1,816	23,457	310,460
4年 2月	243	2,172	23,473	310,003
4年 3月	378	4,258	23,495	309,397
4年 4月	208	2,054	23,540	309,746
4年 5月	228	2,331	23,541	309,138
4年 6月	266	2,726	23,543	309,014
4年 7月	246	2,240	23,563	308,535
4年 8月	278	2,803	23,583	307,835
4年 9月	289	2,847	23,610	307,129
4年 10月	260	2,665	23,621	306,843
4年 11月	290	3,231	23,640	305,911

資料: 石川県信用保証協会

◆ 企業倒産件数

(百万円)

	件数	金額
3年 3月	4	3,836
3年 4月	6	509
3年 5月	10	724
3年 6月	7	1,360
3年 7月	4	62
3年 8月	3	204
3年 9月	3	166
3年 10月	7	6,514
3年 11月	4	640
3年 12月	4	578
4年 1月	2	950
4年 2月	4	200
4年 3月	7	2,279
4年 4月	3	184
4年 5月	2	432
4年 6月	4	184
4年 7月	3	705
4年 8月	2	1,210
4年 9月	6	3,888
4年 10月	7	585
4年 11月	4	500

資料: (株)東京商工リサーチ

主要経済指標

◆ 建築着工

(千㎡、百万円)

	建築着工総数		うち住宅着工	
	床面積	工事予定額	戸数(戸)	床面積
2年 12月	80	16,045	590	54
3年 1月	51	12,277	310	31
3年 2月	163	23,961	465	45
3年 3月	103	24,047	567	55
3年 4月	113	21,857	614	58
3年 5月	102	20,202	571	58
3年 6月	118	22,791	718	65
3年 7月	88	16,623	619	60
3年 8月	76	15,385	789	62
3年 9月	108	19,928	638	57
3年 10月	89	18,306	587	60
3年 11月	184	32,438	896	84
3年 12月	86	20,041	491	45
4年 1月	59	12,492	372	36
4年 2月	63	11,935	474	43
4年 3月	83	17,065	569	50
4年 4月	102	18,001	449	44
4年 5月	95	19,046	625	58
4年 6月	105	18,190	458	47
4年 7月	132	23,646	627	47
4年 8月	86	20,462	511	48
4年 9月	84	16,598	591	54
4年 10月	90	21,380	607	55

◆ 公共工事請負金額

(件、百万円)

	件数	請負金額
2年 12月	299	7,262
3年 1月	211	5,262
3年 2月	152	3,599
3年 3月	127	7,066
3年 4月	509	37,997
3年 5月	389	22,743
3年 6月	584	22,503
3年 7月	664	15,495
3年 8月	471	11,897
3年 9月	537	15,581
3年 10月	458	8,538
3年 11月	402	9,874
3年 12月	271	4,870
4年 1月	193	8,467
4年 2月	112	2,584
4年 3月	99	4,381
4年 4月	609	22,419
4年 5月	318	22,299
4年 6月	669	26,992
4年 7月	627	15,305
4年 8月	592	18,876
4年 9月	600	15,943
4年 10月	484	10,848
4年 11月	445	13,413

資料:国土交通省(石川県内)

◆ 新車登録台数

(台)

	普通自動車	軽自動車
2年 12月	2,339	1,383
3年 1月	2,250	1,326
3年 2月	2,705	1,740
3年 3月	5,105	3,008
3年 4月	2,245	1,506
3年 5月	2,142	1,287
3年 6月	2,472	1,509
3年 7月	2,837	1,439
3年 8月	2,296	1,193
3年 9月	2,105	1,175
3年 10月	2,035	1,107
3年 11月	2,544	1,448
3年 12月	2,280	1,204
4年 1月	2,206	1,265
4年 2月	2,487	1,526
4年 3月	4,396	2,484
4年 4月	1,955	1,297
4年 5月	1,846	1,089
4年 6月	2,225	1,522
4年 7月	2,418	1,513
4年 8月	2,051	1,266
4年 9月	2,785	1,751
4年 10月	2,464	1,555
4年 11月	2,472	1,785

資料:石川県自動車販売店協会

◆ 温泉地宿泊数

(人)

	和倉温泉	輪島温泉
3年 1月	10,858	3,600
3年 2月	10,622	4,000
3年 3月	32,937	6,600
3年 4月	23,814	8,300
3年 5月	17,150	7,300
3年 6月	11,290	4,800
3年 7月	35,443	10,700
3年 8月	43,264	10,400
3年 9月	21,952	7,100
3年 10月	40,773	11,400
3年 11月	59,850	15,400
3年 12月	56,440	10,500
4年 1月	33,904	5,900
4年 2月	14,279	3,800
4年 3月	38,817	8,000
4年 4月	40,914	10,900
4年 5月	47,844	15,300
4年 6月	40,805	12,100
4年 7月	45,894	12,000
4年 8月	73,700	18,700
4年 9月	49,388	14,000
4年 10月	57,583	17,100
4年 11月	63,402	17,100

資料:北陸観光協会、和倉温泉観光協会
輪島市観光協会

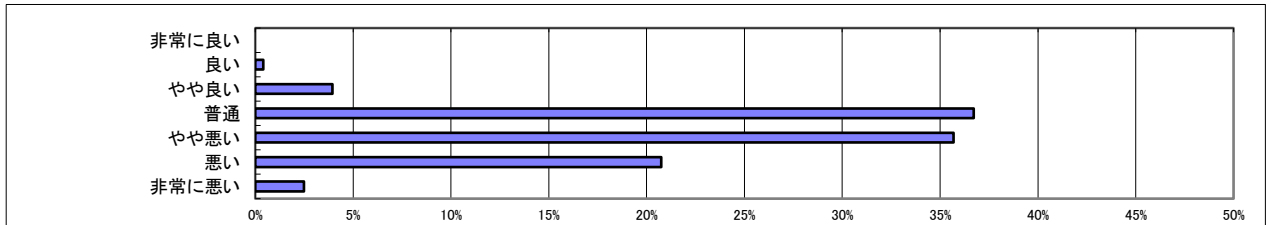
◆ 織物生産高

(千㎡)

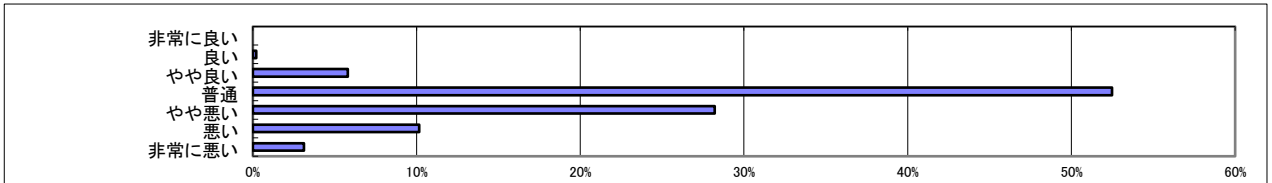
	合計
2年 12月	14,852
3年 1月	15,143
3年 2月	16,191
3年 3月	16,905
3年 4月	17,276
3年 5月	16,199
3年 6月	19,475
3年 7月	19,071
3年 8月	16,987
3年 9月	20,266
3年 10月	21,090
3年 11月	20,272
3年 12月	17,924
4年 1月	17,746
4年 2月	18,866
4年 3月	21,378
4年 4月	18,936
4年 5月	18,496
4年 6月	19,974
4年 7月	20,470
4年 8月	21,400
4年 9月	23,537
4年 10月	22,227

資料:石川県企画開発

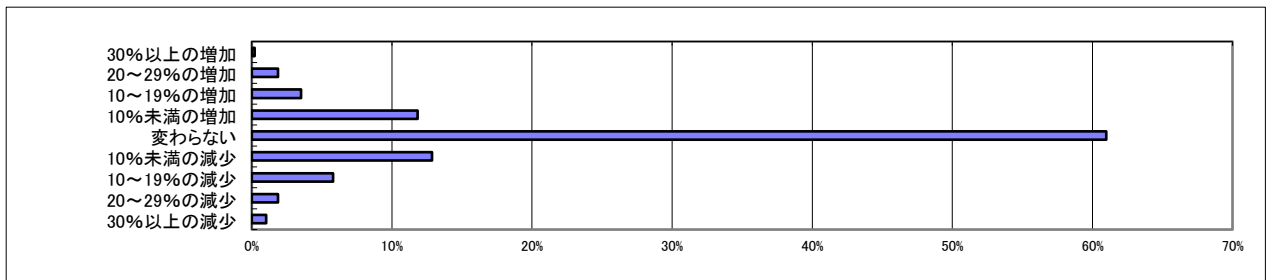
問1. 貴社では、2023年の日本の景気をどのように見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。



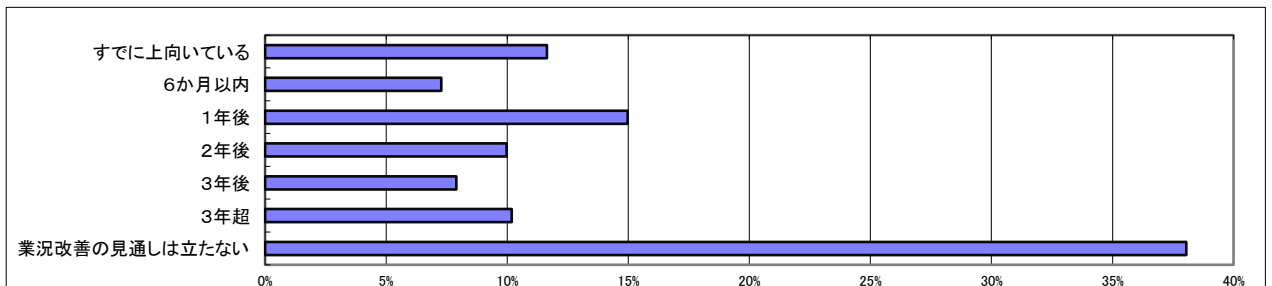
問2. 貴社では、2023年の自社の業況（景気）をどのように見通していますか。次の中から1つ選んでお答え下さい。



問3. 2023年において貴社の売上額の伸び率は、2022年に比べておおよそのくらいになると見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。



問4. 貴社では、自社の業況が上向く転換点をいつ頃になると見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。



問5. 2023年の事業環境を展望したとき、貴社にとっての経営リスクは何ですか。最も当てはまるものを3つ以内で選んでお答えください。

